

基本構想の策定にあたって

◆国が抱える人口減少の現状と課題

日本は現在、深刻な人口減少に直面しています。この現象は少子高齢化の進展によって引き起こされており、総人口は継続的に減少しています。国立社会保障人口問題研究所の推計によると、2025年の総人口は約1億2,300万人となり、2030年代には1億2,000万人を下回ると予測されています。都市部では人口が比較的安定している一方で、特に地方では若年層の流出が顕著になっており、地域間での格差が拡大しています。

人口減少が進む中で、経済的な影響が懸念されています。労働力の不足が経済成長の鈍化を招く可能性があり、地方経済の活性化が難しくなることが予想されます。このような状況下では、社会保障制度への負担が増加し、高齢者を支えるための財源確保が課題となります。さらに、地域コミュニティの崩壊が進むと社会的孤立や地域文化の消失が進行し、若者の居場所がなくなるリスクがあります。また、教育環境にも影響が及んでおり、学校の統廃合や教育資源の不足が懸念されています。子育て支援や保育施設の不足も、さらなる少子化を助長する要因として注視されています。

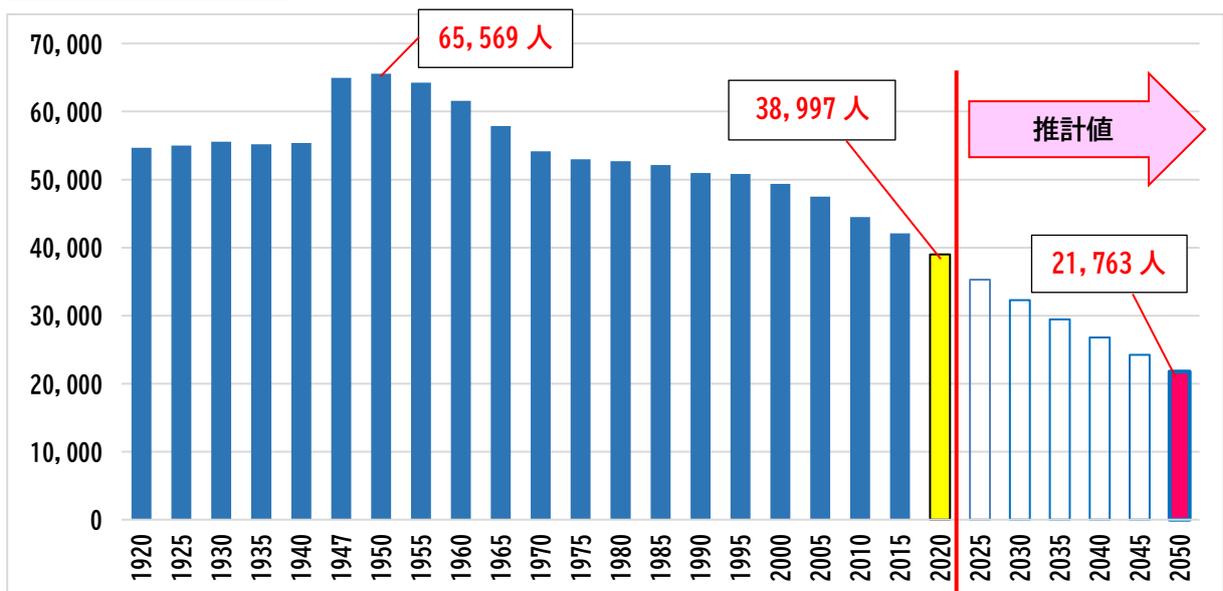
このような課題に対処するためには、移住・定住を促進する政策や、教育・子育て支援を充実させること、さらには働き方改革を進めて地域に根ざした雇用機会を創出することが求められます。持続可能な社会を維持するためには、国と地方が連携し、総合的な取り組みを進めることが不可欠です。

◆郡上市の人口減少の現状

1. 総人口の推移

郡上市の人口は、昭和25年の65,569人をピークに減少し続けています。2020年国勢調査時には38,997人となり、ピーク時に比べて26,572人減少しました。2050年は、2020年からさらに17,234人減少し21,763人、減少率は44.7%になることが予測されています。

郡上市の人口推移

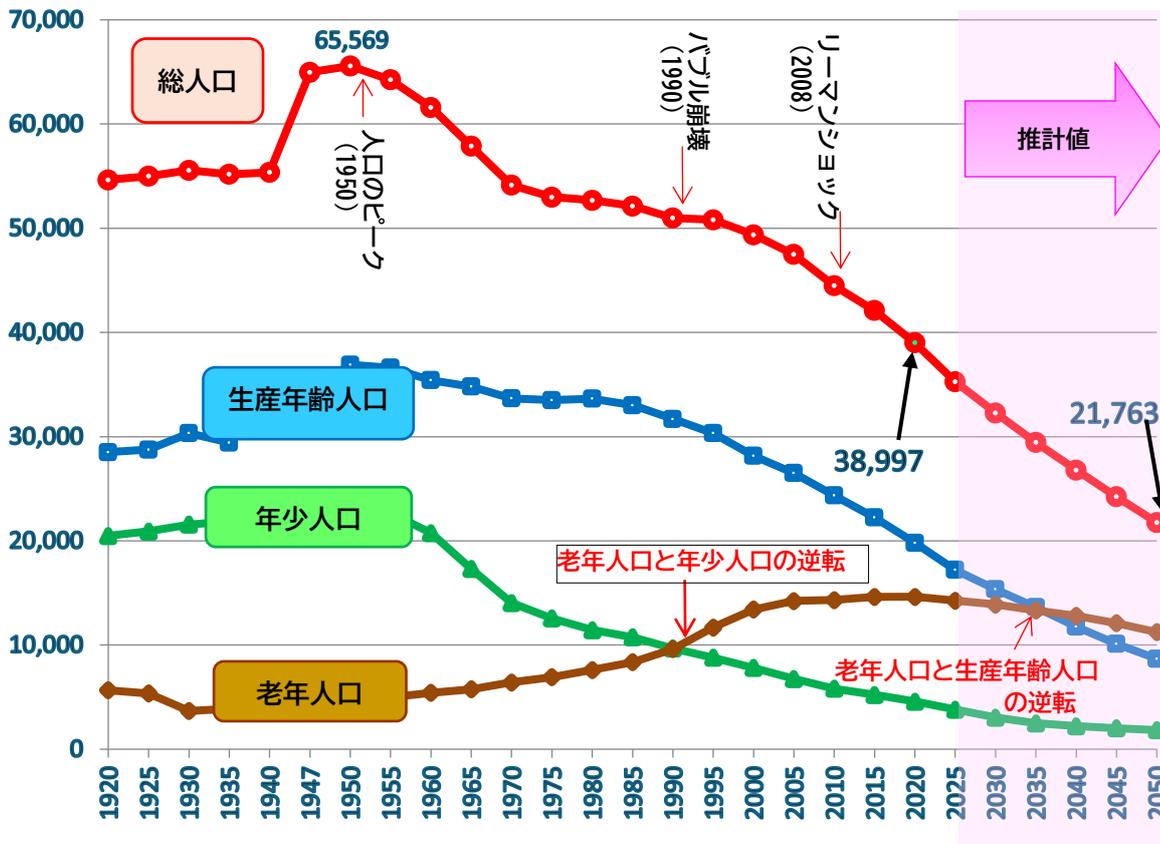


出典：総務省「国勢調査」及び国立社会保障人口問題研究所推計人口

2. 人口構造の変化

人口構造も大きく変化してきており、市民生活の様々な場面で支障をもたらすと考えられます。

総人口と年齢3区分別人口の推移



出典：総務省「国勢調査」及び国立社会保障人口問題研究所推計人口

●65歳以上の老年人口

1990年に既に年少人口を上回っていますが、2035年には生産年齢人口とほぼ同数となり、2045年には総人口の半数の50%に達すると推計されています。

●15歳～64歳の生産年齢人口

減少を続け、2025年には全体の50%を下回り、2050年には40%を下回ると推測されています。これは生産年齢人口の0.77人で1人の高齢者を支えなければならない数字です。

●0～14歳の年少人口

同様に減少し続け、2030年には全体の10%を下回り、2050年には全体の8.5%になると推測されています。

3. 出生数の推移

直近10年の出生数の推移

年	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
人数	272	281	263	253	213	215	187	173	171	138

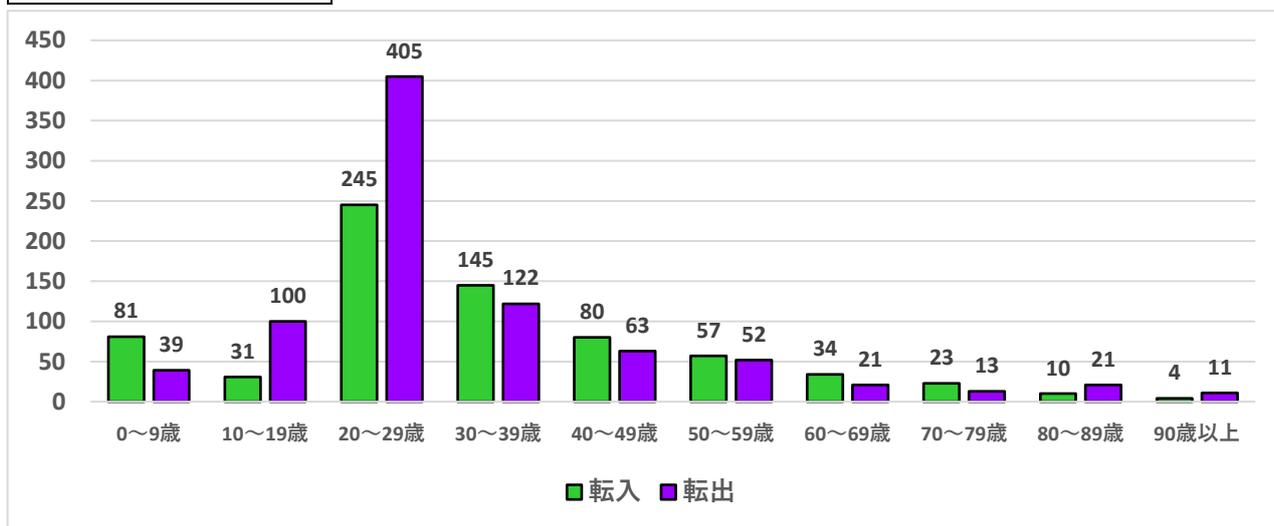
2024（令和6）年の出生数は138人で、10年前の2015年と比べるとほぼ半数（134人の減）になりました。また、2025(令和7)年の見込みは107人と更に減少しています。その主な要因としては、母世代の女性人口の減少や未婚率の上昇などが考えられます。

4. 社会動態の推移

転入数と転出数による「社会増減」については、転入転出ともに年による変化はあるものの、一貫して転出超過（社会減）の傾向が続いています。

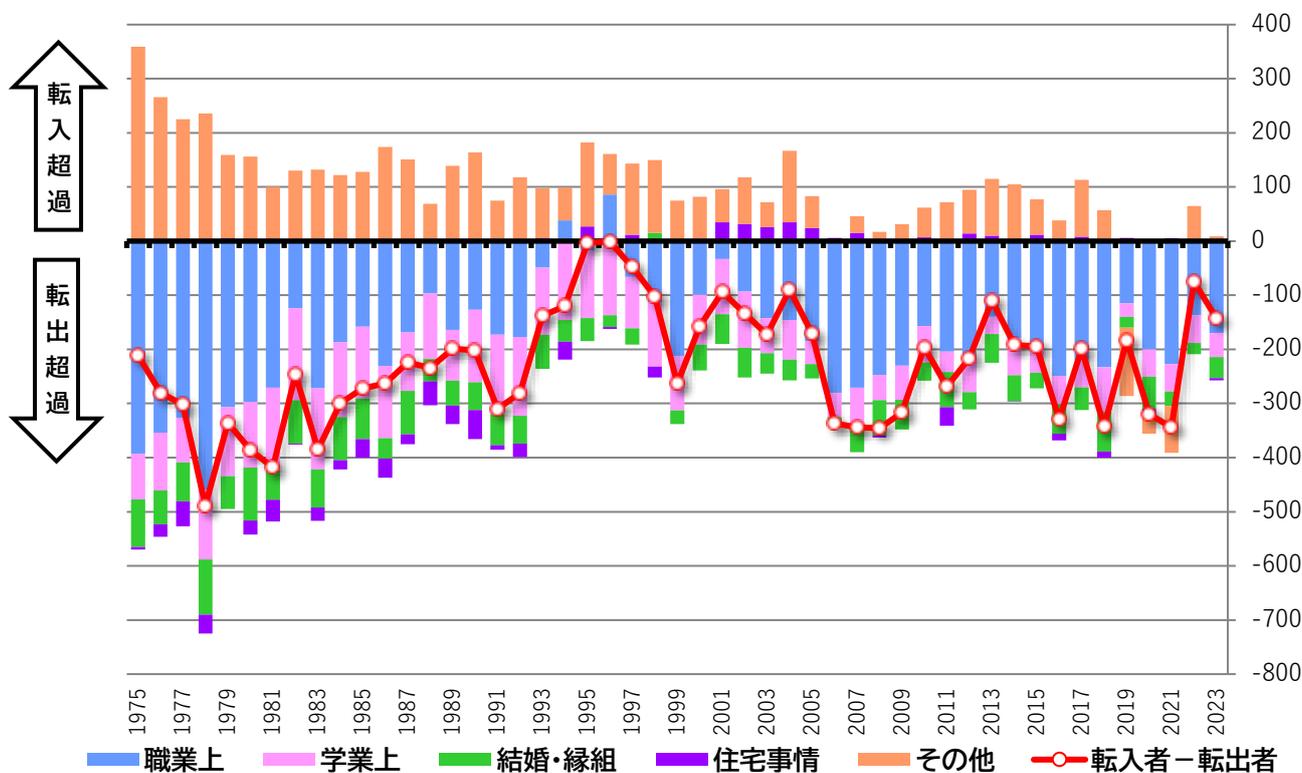
年齢別では、20～30歳の転出が突出しており、郡上市では希望する職を求めて市外へ流出している20～30歳が最も多いことがわかります。同時に、転入の中心も20～30歳であることから、市外に転出した若者の一部が一定程度戻ってきていることなどが推測できます。また、転出理由を見ると、「職業上」が最も多い転出超過が続いています。

年齢別転入・転出差異



出典：令和4年岐阜県人口動態調査

移動理由別転入・転出の推移



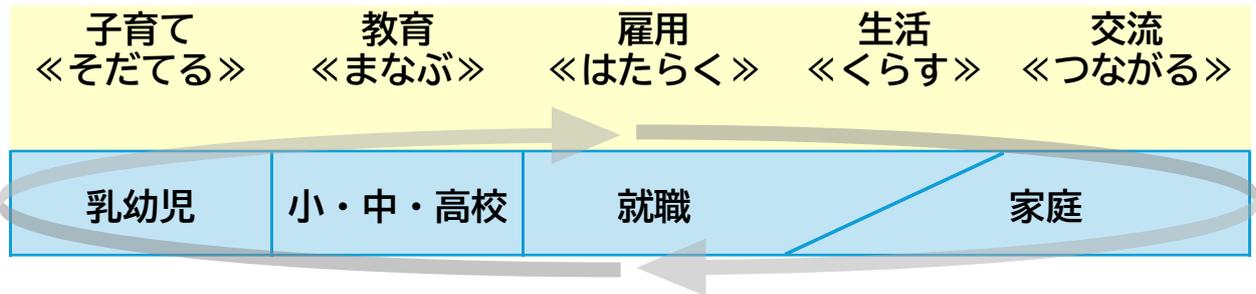
出典：岐阜県人口動態調査（各年、前年の10/1～9/30の期間）

◆人口減少対策の推進に向けたライフステージごとのサイクル

こういった人口減少の現状を踏まえた今後の取り組みとして、様々な世代の人から「このまちが好き」「このまちで住み続けたい」と思ってもらうためには、そこに住む人たちのライフステージに応じたまちづくりを推進していく必要があります。

特に、「子ども」「若者」「子育て世代」の定住につながる好循環を確立していくことが、持続可能な地域づくりの実現につながると考えます。

[ライフステージごとのサイクルのイメージ]



人口減少とライフステージという視点から、今後の郡上市にとって次のような『あるべき姿』の実現を目指していく必要があります。総合計画の基本構想及び基本計画の策定のテーマとして位置づけ、重点的な取り組みとして盛り込むこととします。

①子ども・子育て支援

安心して子育てがしやすく、子どもたちが健やかに育ち、学べる環境が整っている

②雇用の創出と維持

地域で多様な働き方ができ、経済的に安定した生活を送れる基盤が整っている

③移住・定住、Uターン促進

若者や移住者が「住みたい」「住み続けたい」と思える魅力ある地域となっている

④多世代交流とコミュニティの活性化

高齢者も若者も、誰もが居場所を感じ、支え合える温かい地域社会となっている

◆市民が考える郡上市の将来像

○GUJO みらい会議

第3次総合計画の策定に向け、市民の意見を計画に反映させるために令和6年11月～12月に郡上市市民協働センターの企画により開催されました。これまでも総合計画の策定や改訂の際に実施してきましたが、今回は「市民が願う方向性の提案」をテーマに、あらゆる世代の参加者の方々が意見交換やグループワークを行い、最後はまとめたご意見を「市民提案」としていただきました。

会議での意見・感想

- ・ マインドも大切だけど、やるべきことをやる必要性を考え、人口減少でも成り立つ街をつくる。
- ・ 民間でやれること、信頼してもらえる団体を作れたら市を支えられるかもしれない。行政任せじゃなくて、市民がもっとやっていきたい。
- ・ 人口減少をくい止めるのか？人口減少を受け入れた街を目指すのか？
- ・ 市民が自前でやることを増やしていくことで、市の財政にも効果が出てくると思います。
- ・ 行政も市民も失敗してもいいからまずやってみる。
- ・ 市民と行政の相互理解、本当に大切だと思います。

会議での市民提案の例

「魅力ある郡上の産業を誇りに想う」

- ・ 世代を問わずみんなに知ってもらえる。
- ・ 時代に合わせた新しい取り組みに挑戦できる。
- ・ 郡上ならではの仕事ができる。
- ・ 夢が持てる産業がある。

「子ども・若者が生涯かけて、挑戦できる、活躍できるまち」

- ・ 海外を含む他地域との連携を増やす。
- ・ キャリア教育や ICT 技術の習得の充実。
- ・ 就業の選択肢が増える環境。

「世代関係なく関われるコミュニティ」

- ・ 住んでいる本人が楽しく生きられる地域をつくる。
- ・ 若者の“親”の意識を変えることの必要性。
- ・ 地域住民の集合場所である公民館の有効な活用。

「時代にフィットし続ける攻めの行政」

- ・ 公共施設やサービスの分類をする。(維持・改修・廃止・官民連携)
- ・ 市の事業に目的と最優先事項を設定し、達成できなければ「削る」。
- ・ やりたいことのためにお金を稼ぐ必要があればそれを目的とした事業を作る。

○郡上みらい応援団（若者会議）

「消滅可能性自治体」とも言われる地域の未来を見据え、若者の視点からの提案を積極的に取り入れる動きとして「郡上みらい応援団」が令和6年度に発足しました。会議を通じて、今の市政への期待や課題を語り、郡上という地域に暮らす・関わる当事者としての声を届ける取り組みを実施しています。

グループワークでの意見の例

- ・市民が自立できる仕組みづくり
市民と行政のあいだにある“見えない壁”を風通し良くすることが必要。
- ・行政の活動や情報の「見える化」と「コンテンツ化」
“エンタメ化”や“生活者目線”で情報発信を再設計し、誰でも手に取りやすい形にすることや、デザイン・編集・構成の観点から“伝え方”を見直すことで、住民との距離を縮めることが必要。
- ・子育てのしやすさ
乳幼児期の支援だけでなく、高校・大学までの一貫した経済的支援など、長期的視点での支援設計が必要。

グループワークにおける共通の思い

『市民の側からもっと関わりたい』

『行政との距離を縮めたい』

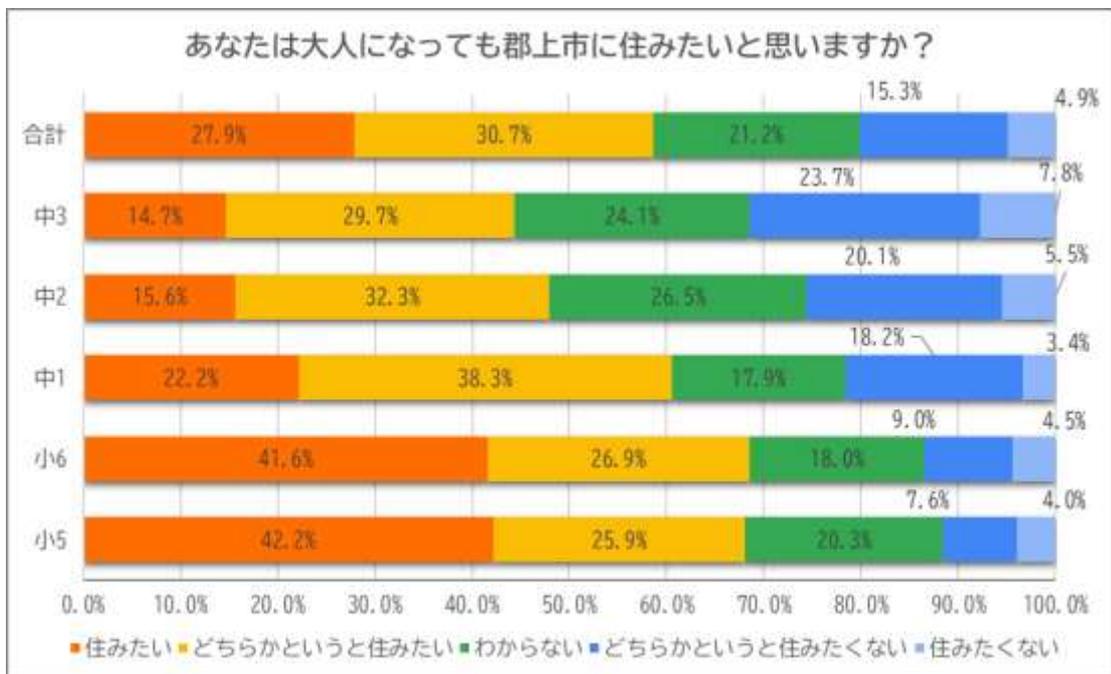
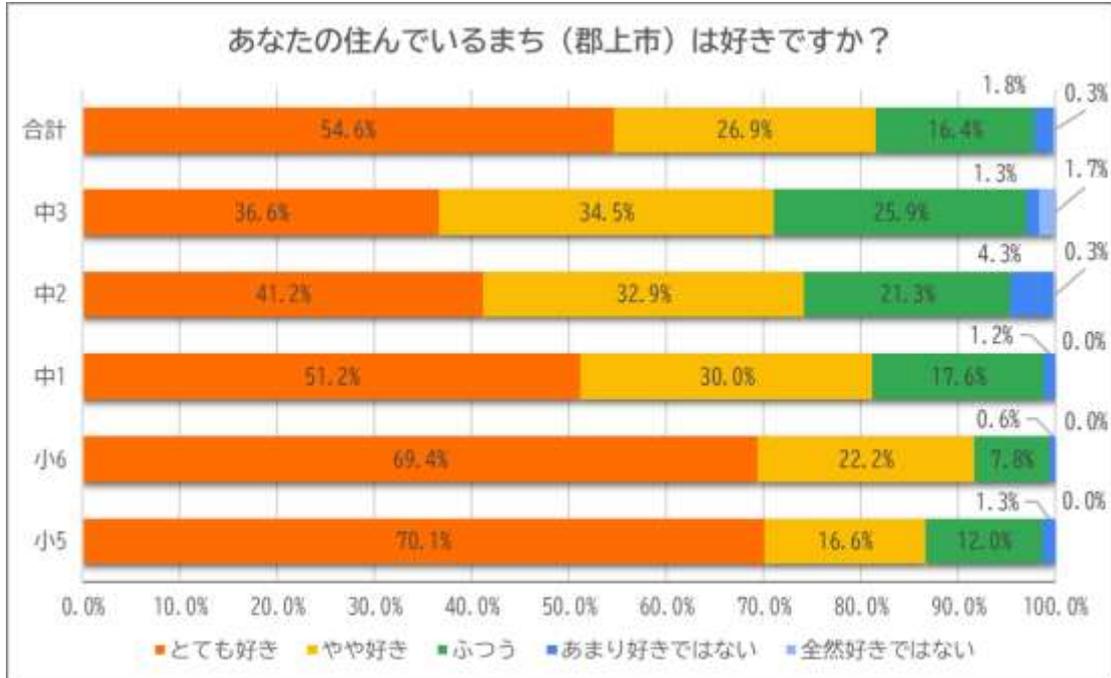
『暮らしやすさを一緒に作りたい』

開催した会議等を通じて、市民のみなさんが市の現状や行政（市役所）の取り組みを「自分ごと」としてとらえながら、それぞれの思いや意見を提案していただきました。今後は、行政がすすめるまちづくりと、市民の方々が考えるまちづくりについて、お互いの思いや考えを共有し、新しい視点とアイデアを取り入れながらチャレンジしていくことが大切です。また人口減少、大規模災害、物価高騰など直面する問題が年々増加・深刻化していくこれからの時代、未来まで住み続けられるまちであるためには、「行政ができること」と「市民の方々ができること」を考え一緒にまちづくりを進めていくことが必要であると考えます。

○小中学生・高校生の考える未来

郡上市での暮らしや自らの将来に関して、小中学生及び高校生の考えや意見を調査することで、未来の担い手となる世代のニーズを把握し、特に人口減少対策（定住及びリターンの推進等）の今後の施策展開に反映させていくために、アンケートを実施しました。

■小中学生アンケートより（回答者：市内小中学校の小学5年生～中学3年生）



ふるさとへの愛着は、学年が上がるにつれて徐々に減少していますが、全体としては、郡上市が好きな子どもの割合は非常に高く、一方で好きではない子どもがわずかであることは、これまでの郡上市のまちづくりや学校・地域での取り組みの成果であるともいえます。今後も子どもたちが『自分が生まれ育った町を大人になっても好きでいられる』ように、行政や教育現場、そして地域の大人たちができる取り組みを共に考えていくことは、若者の都市部への流出を防ぐためには必要不可欠な要素です。

■高校生アンケートより（対象者：市内高校の全学年 705 人 回答者：477 人〔67.7%〕）

高校卒業後の進路について、現在どのように考えていますか？	郡上高校 回答数	郡上高校 比率	郡上北高校 回答数	郡上北高校 比率	全体 回答数	全体 比率
郡上市内で就職	21	5.75%	18	16.07%	39	8.18%
郡上市外で就職	17	4.66%	13	11.61%	30	6.29%
大学・専門学校等に進学	283	77.53%	56	50.00%	339	71.07%
まだ決めていない	44	12.05%	25	22.32%	69	14.47%
総計	365	100.00%	112	100.00%	477	100.00%

もし郡上市外に進学・就職した場合、将来的に郡上市に戻ってきたいと思えますか？	郡上高校 回答数	郡上高校 比率	郡上北高校 回答数	郡上北高校 比率	全体 回答数	全体 比率
ぜひ戻ってきたい	36	9.86%	16	14.29%	52	10.90%
できれば戻ってきたい	91	24.93%	31	27.68%	122	25.58%
どちらともいえない	162	44.38%	37	33.04%	199	41.72%
あまり戻ってきたいと思わない	61	16.71%	25	22.32%	86	18.03%
全く戻ってきたいと思わない	14	3.84%	1	0.89%	15	3.14%
その他	1	0.27%	1	0.89%	2	0.42%
無回答	0	0.00%	1	0.89%	1	0.21%
総計	365	100.00%	112	100.00%	477	100.00%

将来、どんな情報や支援があれば、郡上市に住み続けたり、戻ってきたいと思えますか？（複数選択可）	郡上高校 回答数	郡上高校 比率	郡上北高校 回答数	郡上北高校 比率	全体 回答数	全体 比率
仕事と生活の両立支援（ワークライフバランス）	170	20.43%	48	19.35%	218	20.19%
住まい（家の購入・賃貸など）に関する情報や補助金	167	20.07%	48	19.35%	215	19.91%
福祉（子育て支援・医療など）に関する情報や補助金	158	18.99%	40	16.13%	198	18.33%
就職に関する情報（企業情報、求人情報など）	122	14.66%	39	15.73%	161	14.91%
特になし	77	9.25%	33	13.31%	110	10.19%
専門的な仕事のスキルアップの機会	52	6.25%	16	6.45%	68	6.30%
起業に関する支援制度	46	5.53%	14	5.65%	60	5.56%
地域の人たちとの交流機会	40	4.81%	10	4.03%	50	4.63%
総計	832	100.00%	248	100.00%	1,080	100.00%

高校卒業後の進路については、約 77%が進学や就職で一度市外へ出ていくことを希望していますが、次の「将来的に戻ってきたいと思うか」という問いに対しては、「ぜひ戻ってきたい」「できれば戻ってきたい」を合わせた約 37%よりも、「どちらともいえない」が約 42%で最も多くなっています。この層の若者たちにどれだけ多く郡上市に戻ってきてもらうか、そして、そのために「選んでもらえるまち」となっていくことがまちづくりの方針の中でも重要なポイントとなります。

また、「どんな情報や支援があれば住み続けたり、戻ってきたいか」という問いでは、「仕事と生活の両立支援」が最も多く、次いで「住まいに関する情報や補助金」「福祉に関する情報や補助金」となっており、特にワークライフバランスを重視する子どもたちが増加していることは時勢を反映した結果であるため、今後は、時代に見合ったニーズを的確にとらえた施策展開に一層注力する必要があると考えられます。

■子どもたちが望む「将来の郡上市」

①高校生アンケートでは「郡上市がどんなまちになってほしいと思いますか」と質問したところ、「自然環境の保全」が最も高く約30.0%を占め、次いで買い物や交通など「生活利便性の向上」、「伝統や文化」、「働きやすさと若者の活躍」が続く結果となりました。高校生が感じる『まちの魅力』は、美しい自然などの『現在の良さを守ること』と、生活のしやすさなどの『今後、発展してほしいこと』の両面を持ち合わせていることがわかります。

将来、郡上市がどんなまちになってほしいと思いますか？ 最もあてはまるものを1つ選んでください。	回答数	比率
美しい自然環境がいつまでも守られるまち	143	29.98%
買い物が便利で、生活しやすいまち	64	13.42%
交通の便が良く、どこへでもアクセスしやすいまち	62	13.00%
伝統や文化が守られ、大切にされるまち	58	12.16%
働きやすく、若者が活躍できる場がたくさんあるまち	53	11.11%
子育てがしやすく、安心して暮らせるまち	31	6.50%
特に希望はない	25	5.24%
地域の資源を生かした観光が盛んなまち	22	4.61%
医療や福祉が充実しているまち	12	2.52%
教育環境が充実しているまち	3	0.63%
その他	3	0.63%
無回答	1	0.21%
総計	477	100.00%

②小中学生アンケートでは、同様の質問を自由回答形式で答えてもらいました。

【具体的な回答の例】 ※回答数が多かった分類順に記載

● 自然環境の保全 (26.2%)

「自然がきれい。」「自然が豊かな郡上市であってほしい。」

「自然やまちの風景が変わらず残っていてほしい。」「環境が整っていて空気も澄んでいる町。」

● 商業施設の充実 (18.5%)

「ショッピングモールなどが、近くにいつでも気軽に行ける場所があってほしい」

「岐阜市みたいにいろんな大きいお店がほしい。」

● 自然と発展の両立 (12.5%)

「ショッピングモールがほしいけど、それ以外は変わらないでほしい。」

「自然豊かなところは残しながら、生活に不便のないまちになってほしい。」

「自然が豊かで、いろんな施設があってほしい。」

● 現状維持 (9.5%)

「今と同じがいい。」「都会みたいになってほしくない。」

「変わらずいてほしい。」「今のありのままの郡上市であってほしい。」

● 公園・遊び場・娯楽施設の充実 (9.4%)

「遊び場が増えてほしいです。」「施設や遊び場が残ってほしい。」

● お祭り・イベントの継続 (8.8%)

「お祭りやイベントを楽しんでいる人がたくさんいるまちであってほしい。」

「郡上踊りなど、もっとにぎやかになってほしい。」

「イベントなどを積極的に行っているいろんな人にいいところが広まってほしい」

● 生活環境の向上 (6.6%)

「人々が豊かに暮らせる町になってほしい。」「交通整備が整ってほしい。」

「子育てがしやすい町。」

● 人口増加・にぎわいの創出 (5.5%)

「人口が増えて、にぎやかな町になってほしい。」「みんな仲のいい町。」

「イベントにいろんな人が来ていて楽しんでいる町。」

● その他 (3.0%)

「特にない。」「このあたたかい雰囲気これからも続いてほしい。」

「リラックスできるような町。」「みんなが笑顔になってほしい」

高校生と同じように、美しい自然環境を守ることと、商業施設・娯楽施設の充実に関する意見が多くを占める一方で、「今のままがいい」「変わらないでほしい」という意味合いの意見が多く見受けられました。自分たちが生まれ育つこのまちと、まちの「良さ」や「強み」が、変わらないまま未来まで続いていってほしいと思う気持ちは、子どもも大人も共通の願いであり、大切にすべきこととして認識する必要があります。